

## 「ポッコちゃん」



バーのマスターが作った、精巧な美人のロボット、ポッコちゃん。店のカウンターの中におかれたポッコちゃんを、誰もロボットだと気が付きません。楽しい短編が全部で50編入っています。

中1  
星 新一著  
新潮社 500円

## 「えんの松原」



華やかな大内裏の中にある『えんの松原』。そこは怨霊たちのたむろする“魔所”だという。女童(めのわらわ)の音羽が出会った少年は、怨霊の影におびえていた。

中2  
伊藤遊作 / 太田大八画  
福音館書店 1575円

## 「すももの夏」



ある夏、セシルたち姉弟妹は、母親の急病のため、こどもだけで旅先のホテルに滞在することになりました。そこには魅力的ですが、謎を秘めたイギリス人男性エリオットが滞在していました。

中3  
ラーマー・ゴッデン作 / 野口絵美訳  
徳間書店 1680円

## 「君たちへの遺産 白神山地」



世界遺産の白神山地。その森の豊かな自然と、歴史・文化を紹介します。

中4  
齋藤宗勝著  
アリス館 1470円

## ブックリスト

# 本のもり

### <中学校編>

子どもの読書活動推進のための懇談会

\*表示価格は税込定価です  
(平成18年3月現在)

## 「モモ」



“灰色の男たち”にそそのかされた人々は、良い暮らしをするために思い込み、必死で時間を節約し、せかせかと生きるようになりだした。モモは、時間どろぼうから、盗まれた時間を取りかえそうとする。

中5  
ミヒヤエル・エンデ作 / 大島かおり訳  
岩波書店 1785円

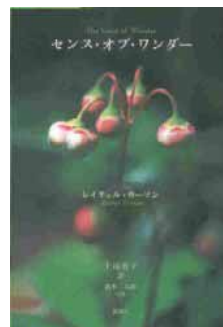
## 「100万回生きたねこ」



100万回死に、100万回生きたねこがいました。その間、自分以外のものを愛したことのなかった彼が、ある時1匹きの白いめすねこに恋をします…。

中6  
佐野洋子作 / 絵  
講談社 1470円

## 「センス・オブ・ワンダー」



この本は、自然の美しさや神秘を子どもとともに、どのように感じあったらいいかを作者の実体験を踏まえ、味わい深く語ってる。文中の写真は美しく、読む者の目をくぎづけにする。

中7  
レイチェル・カーソン著 / 上遠恵子訳  
新潮社 1470円

## 「道具と機械の本」



原始的な道具から現代的な機械の仕組みまでを、わかりやすいイラストで、原理によって分類し解説している本です。思わずうなってしまう一冊。

中8  
デビッド・マコーレイ作 / 歌崎秀史訳  
岩波書店 7700円

## 「二年間の休暇」



15人の少年をのせた大型ヨットが、無人島に流れ着く。互いの偏見や反目を乗り越えて団結し、困難に立ち向かう少年たちの姿が描かれる。おなじみ「15少年漂流記」の完訳版。

中11  
ジュール・ベルヌ作 / 太田大八画 / 朝倉剛訳  
福音館書店 2415円  
(表紙は福音館文庫)

## 「みんなのなやみ」



なやんでいたっていいじゃないか。もやもやしてもそれでいい。なやみとのつきあいかたを、著者と一っしょに考えていく。

中9  
重松 清著  
理論社 1260円

## 「あのころはフリードリヒがいた」



第二次世界大戦下のドイツで暮らすフリードリヒ一家と、その周囲の人々の物語です。ユダヤ人とそうでない人たちに起こった事実に目をそらすことなくつづられています。

中12  
ハンス・ペーター・リッター作 / 上田真而子訳  
岩波書店 714円

## 「雨ふり花さいた」



夏休みに東北の田舎町にやってきたユカは、“ざしきわらし”の茶々丸に出会う。茶々丸はユカによく似た女の子をさがして、時間のあいだを歩き来している。

中10  
末吉暁子作 / こみねゆら絵  
偕成社 1680円

## 「学校ともだち」



あるクラスの「学級日誌」の形式で書かれたちょっと不思議な物語。それぞれの悩みや思いがつづられ、担任のオズ先生も素敵な言葉をそえてくれます。

中13  
長野まゆみ著  
光文社 1365円

京都市図書館では、子どもの読書活動の振興について、関係団体の皆様と「子どもの読書活動推進のための懇談会」を設け、その振興方策等を協議してきました。

平成13年12月、「子どもの読書活動の推進に関する法律」が制定されたことを記念して、平成14年4月に子どものためのブックリストを作成しました。

このリストには、子どもに読んでもらいたい本の中で、図書館や書店において入手できるものを、年代別に各30冊選びました。

このブックリストが、子どもが本を読むきっかけになれば幸いです。

平成18年4月

子どもの読書活動推進のための懇談会

- ・京都市PTA連絡協議会
- ・京都市子ども文庫連絡会
- ・京都市小学校図書館研究会
- ・京都市立中学校教育研究会図書館教育部会
- ・京都市私立幼稚園協会
- ・京都市保育園連盟
- ・京都府書店商業組合
- ・京都市図書館

## 「わたしと小鳥とすずと」



やさしい詩、楽しい詩、少し悲しいさびしい詩...。金子みすゞの詩には、何か心にひびく温かいものがあります。

中14  
金子みすゞ著  
JULA出版局 1260円

## 「弟の戦争」



“ひとつの小さな体の中に戦争が丸ごとあった”  
絶対的な正義の名のもとに行われた湾岸戦争。  
遠く、イギリスの地で少年は、弟をとおしてその戦争を見ることになる。

中15  
ロバート・ウェストール作 / 原田 勝訳  
徳間書店 1260円

## 「カラフル」



死んだはずの僕は「抽選にあたって」下界に住む中学生、小林真の身体を借りて、“ホームステイ”することに。  
下界生活にまいもどった僕を待っていた生活は…。

中19  
森 絵都作  
理論社 1575円

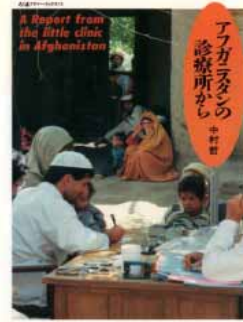
## 「運命の騎士」



時は、11世紀。  
イギリスはノルマン人の支配下にあり胎動の時期を迎えていたころ…  
犬飼の孤児ランダルが、ついに騎士となるまでの数奇な運命が描かれています。

中16  
ローズマリ・サクリフ作 / 猪熊葉子訳  
岩波書店 2940円

## 「アフガニスタンの診療所から」



現地の人たちの風習や考え方など、日本ではあまり知られていない事情が、とてもよくわかります。  
本当の国際協力って一体なんだろう...ということを考えさせられます。

中20  
中村 哲著  
筑摩書房 1155円

## 「君たちはどう生きるか」



中学2年生のコベル君を通し、“人として生きる意味”を考えさせられる作品です。  
助言者役である彼のおじさんの存在が際立ちます。  
初版は1937年ですが、その内容は今なお少しも古くなっていません。

中17  
吉野源三郎著  
ポプラ社 1260円

## 「乱世山城国伝」



応仁の乱のあと、京のまちはもとより、近隣のまちでも戦いがくりかえされていた。  
足軽部隊の九郎はまだ十七歳。自分の命を守るため、刀をふるうが、“精霊踊り”に心がゆるれるのだった…。

中21  
後藤竜二著  
新日本出版社 1995円

## 「夢を掘りあてた人」



トロイアの遺跡を発掘したシュリーマン。  
彼は古代ギリシア世界に憧れ、回り道をしながら、ついに子どもの頃からの夢を実現した。  
果てしない努力と情熱が伝わってくる物語。

中18  
ヨナナ・インゲ・フォン・ギーゼ作 / 大塚勇三訳  
岩波書店 2625円

## 「忘れ川をこえた子どもたち」



“忘れ川”に囲まれた領主の館にクララとクラス姉弟が、ガラス職人の両親が知らない間に連れてこられた。  
フクロウやカラスが言葉を話す中世の物語。  
幼い姉弟は、両親と再び会えるでしょうか…。

中22  
マリア・グリーペ作 / 大久保貞子訳  
富山房 1529円

## 「思い出のマーニー 上・下」



みんなの中にとけこめず、自分の中に閉じこもっているアンナ。都会を遠く離れた村での不思議な少女との出会いが、アンナの心を変えていきます。

中23  
ジョン・ロビンソン作 / 松野正子訳  
岩波書店 672円

## 「きれいな絵なんかなかった」

こどもの日々、戦争の日々



ユダヤ人であるために、ヒトラーによって踏みにじられた少女時代。被害者という立場を越えて、自らの体験をありのままに綴った絵本作家アニタ・ローベルの自伝。

中27  
アニタ・ローベル作 / 小島希里訳  
ポプラ社 1680円

## 「影との戦い ゲド戦記」



人より優れた能力を持っていたゲド。その驕りの気持ちから、死の影を呼び出してしまう。その影に追われ、苦しみ続けるゲドは、やがて影と立ち向かう。その影の正体は...

中24  
ル＝グウィン作 / 清水真砂子訳  
岩波書店 1680円

## 「西の魔女が死んだ」



登校拒否だった中学1年の時、まいは“魔女”とよぶ英国人の祖母と生活を始める。自然に抱かれ祖母と暮らすうちに、まいは生きる力を取りもどす。

中28  
梨木 香歩作  
小学館 1229円

## 「カレジの決断」



アーミッシュの家庭に生まれ、14歳になった少女に、絶対だった価値観への疑問が芽生えます。そこへある事件が彼女をひとつの決断へと導いていきます。その決断とは...

中25  
ア化ーソ・ワイマン作 / 瓜生知寿子訳 / 中村悦子絵  
偕成社 1470円

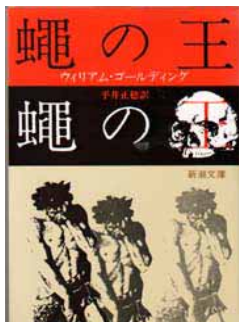
## 「飛ぶ教室」



ドイツの寄宿舎でクリスマスを迎える準備におおわらわの子どもたち。でもそれぞれに家庭の事情が見えかくれしている。やがて子どもたちは、友だちや先生との深い心の結びつきが、自分の成長を助けてくれることを知る。

中29  
エーリヒ・ケストナー作 / 高橋健二訳 / ワルター・トリヤー絵  
岩波書店 1680円  
(表紙は函)

## 「蠅の王」



戦争のさなか、疎開する少年たちを乗せた飛行機が孤島に不時着した。大人は一人もいない。隊長を選び共同生活を始めたのだったが...。心の内なる闇について深く考えさせられる物語です。

中26  
ウィリアム・ゴールドディング作 / 平井正穂訳  
新潮社 620円

## 「めざめれば魔女」



主人公ローラは、お母さんと弟ジャッコの三人家族。ローラの14歳の誕生日の朝、彼女に“前ぶれ”がおとずれる。でも恐ろしい出来事に出会ったのは弟ジャッコだった...

中30  
マーガレット・マーヒー作 / 清水真砂子訳  
岩波書店 2100円